

古場地区 (宇城市)

地名は古場でも先進地 ~頑張ろうキラリ輝くかくれ里 古場~



ビジョンの概要

地区の課題

- ・担い手の高齢化
- ・田畑一枚の面積が狭い
- ・園地整備不足
- ・農道狭い、整備不足
- ・農業用水の不足

ビジョン

地区の目指す姿

- (1) 地域の特産品を新たに導入し、販売するよう努める**
 - ①地域であまり栽培されていない作物を導入し、古場地区の新たな特産品として販売を目指す。
 - ②学校等と連携し、作物の品質向上を目指す。
- (2) 圃場整備の推進により、手つかずの平坦地を耕作する**
 - ①農道や用水施設を整備・更新を行い、将来に向けた環境を整える。
- (3) 共同機械を購入することにより、労働力不足を補う**
 - ①最新機械導入を行うため、メーカー等への視察研修を行う。
- (4) イノシシ被害を防ぐため、集落で対策を行う**
 - ①イノシシ対策を行うため、集落との勉強会を実施する。

成果目標

- ・中山間地域直接支払交付金事業で対象としている農地の維持 (田60a、樹園地31ha)。
- ・農業機械の導入を行い、担い手の労働力の省力化を図る (労働力の5%程度減)。
- ・地区内で栽培されていない作物を10aを目標として作付けする。

ビジョン策定のプロセス

「農地を守り継いでいきたい」から
地域(集落)ビジョンを土台に

地区での取り組みから課題を把握



農道補修やイノシシ被害対策としての「えづけストップ!」などに取り組む中で地区の課題を把握。

地域ビジョンの肉付け→農業ビジョンへ

メンバーで議論を深めながらビジョンを策定。できるだけ多くの人を巻き込むことで、多様なニーズを把握し、地区ぐるみの事業へとつなげた。中山間地域直接支払制度のメンバーでビジョンを決定、地区全体の合意へとつなげた。

意欲的な農業者へ集中的に予算配分

モデル地区のメリットを前向きにとらえて、意欲的な農業社のニーズに応える予算配分に。チャンレンジを重視して、スピード感と目的意識を持って進めてきた。

具体的取り組み

(1) 特産品を新たに導入し、販売できるように努める

- 新規作物・高い単価作物の導入
→アボカドの苗5品種60本を試験的に植えた。
- 学校等と連携し、作物の品質向上を目指す
→かんきつ類の品質向上のほか、ミニトマトは学校給食に多用、品質向上で需要を確保を図っている。



(2) ほ場整備の推進により手つかずの平坦地を耕作する

- 耕作放棄地を基盤整備し、利用可能な農地へ転換
→令和5年度より本格着手。
- 農道や用水施設を整備・更新を行い、将来に向けた環境を整える
→用地の活用方法は将来の検討課題。



(3) 共同機械を購入することにより、労働力不足を補う

- 担い手の省力化を図る
→動力噴霧器、バックホウのアタッチメント購入等により省力化。
- 機械導入を行うためメーカー等への視察研修も行う
→常に情報収集をしている。



(4) イノシシ被害を防ぐため、集落で対策を行う

- 集落ぐるみの勉強会や箱罾設置を行う
→電柵、メッシュ柵設置を進行中。

成果

成果目標

- ・ 中山間地域等直接支払交付金事業の農地を維持する
(田60a、樹園地31ha)
- ・ 担い手の省力化を図る
(労働時間5%削減)
- ・ 新規作物を10a作付けする

結果

- ・ 田60a、樹園地31haを維持
- ・ 共同機械導入の効果をこれから検証する
- ・ アボカドを作付け。新規作物としての可能性を検証する

今後に向けて

①新しいことにチャレンジする、人とのつながりを大切にする

②コロナ対策